



問 特殊車両の維持について問う

救急出動件数が増加している中、市内においても救急車が常に走行しているイメージがあるが、コロナ禍前の令和元年とコロナ禍の令和4年の救急出動件数ならびに車両の更新基準は。

また、令和5年7月末時点の救急出動件数が昨年の同時期と比べると500件以上増加しているが、整備等により出動できない車両が出てくることも想定される中で、台数は不足していないか。

答 順次計画的に更新するとともに車両が不足しないよう対応する

救急車の出動件数については、令和元年は1万5,899件、令和4年は1万7,589件となっている。また、更新基準については、第三次津市消防力整備計画において、10年または走行距離15万キロメートルとしており、順次、計画的に更新している。

現在、高規格救急自動車13台で救急対応しており、整備等で運用できない場合や救急要請が一時的に集中した場合などは消防本部が保有する非常用救急車2台を活用することで、救急車が不足する状況とならないよう対応している。

その他の質疑・質問

- 今後の市政運営に向けた職員体制について
- 職員の新規採用の考え方について
- 定年引上げ職員の配置について
- 異常気象への各部の体制について
- 市民への伝達ツールについて
- 各部の緊急体制及び業務内容について

▶ 救急出動に対応している救急車



問 保育士の労働環境改善に向けた考えは

崖っぷち保育ともいわれる保育現場を「子どもよし、保護者よし、保育士よし」の三方よしとするためには、保育士の労働環境の見直しが急務であるが、正規職員と会計年度任用職員の配置の見直し、ICTを活用した業務改善および残業を減らす方策についての考えは。

また、保育現場における課題を把握するための職員へのアンケート調査実施についての考えは。

答 保育現場がより働きやすくなるよう努めていく

合併以後、正規職員は増えているが、どうしてもカバーしきれない部分を会計年度任用職員でカバーしている状況である。ICTは、令和4年4月に公立保育所等全25園に導入したが、システム操作への不安により十分に活用されていない園もあることから、職員を派遣するなどの支援を行っていく。残業を減らすことは大事であり、保育の質を維持しながら業務の見直しを行っていく。

現在は、アンケートは実施していないが、職員組合を通じた意見交換会において現場の声を聞いており、今後も職員の意見に耳を傾け、保育現場がより働きやすくなるよう努めていく。

その他の質疑・質問

- 女性の就業継続支援、働きやすい職場づくりについて
 - 「女性職員活躍サミット」の成果を活かし、女性職員の採用と男性育児休業につながる方策を
 - 津市の空き家対策の現状と取り組みについて
 - 性犯罪等の前歴がある教員の確認を義務化し、児童・生徒の安全確保を

▶ 国・県・市の職場の垣根を越えて、初めて実施された「女性職員活躍サミット」会場の様子

